
雨の日のキス。/神楽×沖田

音紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日のキス。／神楽×沖田

【ZPDF】

Z3990D

【作者名】

音紅

【あらすじ】

雨の日。銀時にお使いを頼まれた神楽はその序でに黙菓子屋へ行くが…

(前書き)

これは漫画『銀魂』を元にした小説です。
神楽×沖田が嫌いな方、又、どちらかが嫌いな方はお引き取り下さい。

「むう……」

神楽は不機嫌そのものの顔で、窓の外を睨んでいた。

「んだあ、神楽。そんなに外に出てえのか? だつたら丁度良いや。ジャンプ買つてくれや」 そんな彼女を見下ろしていた銀時は、そう言い付けた。

「はあ? 何言つてるアルか。まだジャンプ買つてなかつたのかヨ」

「ここ最近忙しかつたろーが。んなときに行けりゃ買ひに行けるか」

「いつも気がつけば買ひに行つてるアル」

「ん? 何か言つたかー」

「別につ何もないヨ。行つてくるアル」

パシャパシャと水溜まりに入りながら、適当なコンビニへ向かう。
「有難う御座いましたー」

今週号のジャンプを持ったまま、駄菓子屋へ行く。

「ー」

その途中の道。路地の入り口に、小さな段ボールが置いてあった。

「これは

中には子猫が一匹。

雨が降つてゐるため、一匹は濡れていた。

神楽は、万事屋にいるでらうあの男を思い出す。
そして申し訳なさそうに表情を歪ませた。

「…」めん。万事屋には血も涙もない天然パー・マがいるから連れて
けないよ」

持つてきていった銀時の物であるビニール傘を、雨避けにと置いていつた。

駄菓子屋に着く頃には雨脚が強まり、ずぶ濡れになっていた。

「酢昆布、あるアルか？」

もつ回例となつた台詞。

けれど返ってきたのはいつもとは違つものだった。

「あ、酢昆布はさつき売れちゃつたんだよ」

「え…」

「いつも公園で骨寝をしてる人がね、ついさっき

そこまで聞いて、神楽はピンときた。

(アイツ ……)

雨が降つてゐる中、公園にいる馬鹿はいないだらう けれど、彼女は公園へ行つた。

いる気がした。

そして、文句の一つでも言つてやるかと思つてゐたのだ。

「つよいサド野郎！」

人氣のない公園で、神楽の声は響いた。

暫くして。

「…んだコラ…るせえんだよ。折角、人を待つてんだから仕事とか勘弁して下せH…」

「誰待つてるアルか

「だーかーらー…」

沖田はアイマスクを取つた。

目の前に神楽の顔がある。

「つおつ」

「可愛い子がわざわざ文句を言つに来てやつたアルよ。もひょひつ

とマシな反応は出来ないのかお前

「はつ…可愛い？そんな奴、何処にいるんでイ

「田の前にいるアルよ。…つーかそんなことどーでも良いアル。私

から酢昆布を奪つて、誰を待つてるアルか？」

私

「……！」まさか、さつきの、聞いてたんですかイ…？
「当たり前アル。今この公園にいるのは私とお前だけヨ」
「待つてた甲斐がありやした…」

「へ…！？」

すると神楽の髪から、雨の零が落ちた。
自分の先程の言葉を思い出し、赤面する沖田は、誤魔化すように話題を変える。

「お前、傘は」
「…置いてきたネ」
「馬鹿か」
「フンッ！ほつとくヨロシ」
「…ほつとけねえなア」
「優しく沖田が言つと、神楽を思い切り引き寄せた。
「…！」
言葉が出ない。
ゆつくりと唇を離すと、沖田の整つた顔が間近にあった。
「傘代でさア。…それ使って下せヒ」
「ばつ…！…私の唇は傘代なんかじゃ足りないヨ。酢昆布と、も
つと別の物、よこすヨロシ」
「んー？じやあ傘代+酢昆布+欲しい物で良いですかイ？」
神楽の頬が赤くなる。
「…それで良いヨ」

もう一度、唇を重ねた。

翌日、二人が風邪を引いたのは言つまでもない。

(後書き)

初投稿作品です。

どうだつたでしょうか?

感想をお聞かせ願いますと共に、好きなカップリングなども教えて下さると嬉しいです

銀魂のみならリクエストもOKですの...

音紅

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3990d/>

雨の日のキス。 /神楽×沖田

2010年10月12日14時18分発行